

「政府主催 拉致問題に関するシンポジウム」主催者挨拶

令和7年12月13日（土）

内閣官房長官そして拉致問題担当大臣を務めております木原稔でございます。本日のシンポジウムへの御来場の皆様方、インターネット配信を御視聴の皆様方、主催者として心から厚く御礼申し上げます。

私は、今、担当大臣をしておりますが、担当大臣になる前から、或いは議員になる前から拉致問題に強い関心を寄せ、活動も行ってきました。そのきっかけとなったのは、地元熊本の松木薫さんという拉致被害者の存在がありました。松木さんにはお母様がいらっしゃいました。スナヨさんといわれますが、体調が悪くなられ、病院にお見舞いに行ったところ、もう半ば意識がないような状態ではありましたが、息子さんを必ず連れて帰りますと申し上げたところ、にこりというわずかな笑みを見て取ることができました。しかしながら、スナヨさんの生前に約束を果たすことができず、その悔しさ、申し訳ない思いが、今も活動の源となっております。私と亡くなられたスナヨさんと私との約束であります。必ず果たしたいと思っております。

そして、他の御家族の皆様からも、なんとしても肉親との再会を果たしたいという切実な思い、痛切な声をたくさん伺ってまいりました。先日は、横田めぐみさんの拉致現場も視察し、改めて問題解決へ向けた決意を新たにしたところであります。この後にも、御家族から「生の声」を発信していただきます。

拉致問題は、被害者やその御家族の皆様が御高齢となっている中で、人命そのものがかった人道問題であると同時に、国家主権の

侵害であり、高市総理を中心とした私ども高市政権にとっても最重要課題であります。

一刻の猶予もないこの問題を御家族が御健勝なうちに解決する。それにより、双方のみならず国際社会が大きな利益を得て、共に平和と繁栄を享受する。そのためにも、日朝平壤宣言に基づき、互いに実りある関係を作るべく、日本政府は、様々な状況に応じて果敢に行動してまいります。高市総理は、金正恩委員長と正面から向き合う決意を述べています。私も、その総理の下であらゆる手段を尽くしていく考えです。

また、国際社会との連携も重要だと考えております。各国との二国間会談や国際会議などの機会においても、拉致問題の即時解決への理解と協力を求めてきています。例えば、記憶に新しいのは、10月の日米首脳会談において、トランプ大統領から全面的な支持を得たところです。大統領は御家族とも面会されております。

北朝鮮を巡っては、核・ミサイル活動、そしてロシアの軍事協力の進展など、深刻に懸念すべき状況が続いております。この後、北朝鮮研究の専門家である伊豆見（いずみ）教授に、北朝鮮の内外情勢をめぐる現状や今後の展望について御講演をいただく予定となっております。

また、政府は、北朝鮮に向け、ラジオ放送を毎日実施しております。この放送で、本日の御家族の訴えに加え、私からも、拉致被害者全員の安全確保と即時帰国を求めるメッセージを届ける予定です。

そして、世代を問わず、日本国民の皆様が心を一つにして、全て

の拉致被害者の一日も早い帰国実現への強い意思を示すことが、拉致問題の解決に向けた、力強い後押しとなります。

第一部、第二部では若い世代の方々が積極的に学ぶ姿を御覧いただいたと思います。中学生サミットや作文コンクールに参加した方が自発的に勉強会を開催し、拉致被害者御家族と共に活動する。自分の思いを、地元の集会で発表する。さきほど作文を読まれた片岡彩希（かたおか いぶき）さんや、羽島 奈穂（はしま なほ）さんたちのような若い方が続々と出てこられる。そのことを大変心強く思っております。

私は、このシンポジウムに先立ち、拉致問題の模擬授業に取り組んでこられた岡山大学の学生の皆様ともお会いしました。その学生の皆様はやがて教育実習を終え、教壇に立つ学校の教員になられる方々です。拉致問題をどう考え、周りの理解をどのように深めるか、示唆に富む意見交換の機会でした。先生になる皆様方にとっても拉致問題というのは自分が生まれる前の問題になります。

本日御紹介した、中学生の方々の大変素晴らしいアイデアに基づく動画は、私も総理官邸のアカウントを使って発信したいと思っております。

拉致問題は決して過去の歴史上の事件ではなく、今すぐ解決すべき、現在進行形の問題であります。

そして今、若い方々も、大人も、皆が一緒になって声を上げる、そういった行動の輪が、広がっています。このことを広く知ってもらいたい、これが本日のシンポジウムの趣旨であります。皆様のなご一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

認定の有無にかかわらず、全ての拉致被害者の一日も早い御帰国を何としても実現するため、そして就任あいさつで申し上げた私が最後の拉致問題担当大臣になるとの覚悟を持って、全力で取り組む所存です。本日の御来場そして御清聴、誠にありがとうございました。